令和8年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【栄小学校】

① 今年度の目標と学力向上策

重点的に育成する資質・能力	(1)確かな学力を身に付け、自ら学び考える資質・能力 (2)自分の想いを豊かに表現できる資質・能力
⇓	
実施する学力向上策【時期・頻度】	(1)－①「ドリルパーク」や「プレテスト」等を活用し、漢字の習得、計算等の反復・習熟に取り組む【週に1度（ぐんぐんタイム）】 (1)－②児童が自分の学びを次の学習に繋げられるように、振り返りの時間を設定する。【毎時間】 (1)－③学びを深める時間を活用し、一人ひとりの課題に合った学びを進める。【単元ごと】 (1)－④中学年から教科担任制を実施し、授業の「質」の向上と学習内容の定着を図る。【毎時間】 (2)－①児童が自分の考えを表現する際に、思考の足跡を残す習慣を身に付けさせる。また、オクリンクプラスやCanva等を活用して、思考の共有を行い、協働的な学びの中で、表現力を育む。【毎時間・単元】 (2)－②読書を通して、様々な表現力を身に付けさせる。【朝読書】

② 全国学力・学習状況調査結果の分析

特徴的な結果	本校の国語は、文章の表現の工夫に気付く力や、文章全体の構成・展開を捉える力、文章の種類とその特徴を理解する力が、全国平均を上回っており、文章の構造や表現を捉える力に強みが見られる。一方、漢字を文中で正しく使用する力、引用を用いて自分の考えを分かりやすく表現する力、情報と情報の関係を捉え、図などで表す力は全国平均を下回った。今後は、読む力を生かしながら、身に付けた知識を実際に使って書き表す力や、情報を整理・関連付ける力の育成が課題である。本校の算数は、全国平均と比べると下回る項目が複数あり、基礎的な計算技能から、数量関係や図形に関する理解、考えを説明する力まで幅広く課題が見られた。特に、立体の体積の求める問題、割合の基準量を求める問題は全国平均値より大幅に下回っている。また、整数と小数の減法や異分母分数の大小判断・理由の記述にも課題が見られる。今後は、基礎・基本の確実な定着に加え、数量や図形の意味を捉え、根拠をもって説明する活動を充実させる必要がある。
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	国語・算数の結果から、本校の児童は、文章の構成や表現の工夫、文章の種類などを捉える力は比較的身に付いている一方、身に付けた知識や情報を実際の場面で活用し、自分の考えを表現することに課題があると考えられる。国語では、文章の構造や表現を捉える力が全国平均を上回る一方、漢字を文中で適切に使用することや、引用を用いて自分の考えを伝えること、情報同士の関係を整理することに課題が見られた。算数では、計算や体積、割合、分数などの基礎的・基本的な内容の定着に加え、数量や図形の意味を捉え、根拠を明確にして説明する力にも課題が見られる。これらを踏まえると、「分かる・できる」で終わらせず、既習事項を活用して考え、理由や根拠をもって説明・表現する学習経験を充実させることが重要である。

③ 中間評価

学力向上策の実施状況	評価（※） C	基礎・基本の定着を図るため、日常の授業や朝学習等において、漢字・計算などの反復学習を継続している。また、授業では、自分の考えをもつことや、友達と考えを交流する活動を取り入れ、思考力・表現力の育成に努めている。学力向上策(1)-①、②、④、(2)-②の実施策は、概ねが学力向上に効果があった。一方で、既習事項を活用して課題を解決し、根拠を明確にして説明する学習には、さらなる充実が必要である。今後は、基礎・基本の定着と活用・表現する活動を一体的に進め、学んだことを実際に使う授業づくりを推進していく。(1)-③、(2)-①は、見直しが必要である。
⇓		
学力向上策の見直し	学力・学習状況調査の結果から、知識・技能を身に付けるだけでなく、それらを活用して課題を解決し、根拠を明確にして表現する力の育成を一層重視する必要があることが明らかになった。児童の学びを深めるため、思考力を高めるために、学力向上策の(1)－③授業の中で「なぜそう考えたのか」「どの情報を根拠にしたのか」を説明する場面を意図的に設定する。【毎時間】と見直す。また、国語で身に付けた情報を整理・関連付ける力を算数の問題解決にも生かすなど、教科横断的な視点を取り入れるために、(2)－①児童が自分の考えを表現する際に、思考の足跡を残す習慣を身に付けさせる。【毎時間】と見直す。さらに、学校課題研修で学力・学習状況調査の結果と課題を全職員で共有し、児童の誤答を単なる間違いとして捉えず、つまずきの原因を分析して指導に生かすとともに、授業後の振り返りや学習状況の継続的な把握を行い、検証しながら児童の学力向上を図っていく。	

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（おおむね達成）C 6割未満（あと一歩）

④ さいたま市学習状況調査結果の分析

特徴的な結果	
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	

⑤ 年度末評価

学力向上策の実施状況	評価（※）	
⇓		
今年度の成果と次年度の課題		

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（おおむね達成）C 6割未満（あと一歩）